

トヨタ 2000GT

TOYOTA 2000GT

見る者を魅了する流麗なフォルム。
日本車史上、もっとも美しいスタイル。

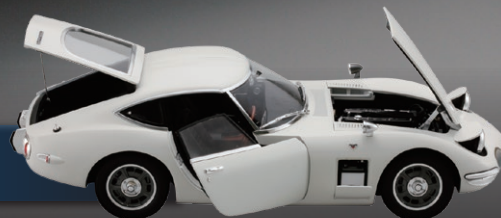
1:10 SCALE

全長 417mm



8

今なお語り継がれる伝説のグランドツーリングカーを再現！



DeAgostini
COLLECTIBLES

36号

シャシーフレームを 組み立てる

今号では、35号で下準備を施したシャシーフレームAに、シャシーフレームBを取り付ける。なお、35号で【デフケースのパーツが簡単に外れてしまう場合】に従って作業した場合は、事前にいくつかの手順を経しておく必要があるので注意しよう。

今号のパーツ



- ① シャシーフレームB×1
- ② ビス(Pタイプ)×9(※1本は予備)
- ③ ビス(Oタイプ)×3(※1本は予備)
- ④ ビス(Qタイプ)×2(※1本は予備)

使用する道具

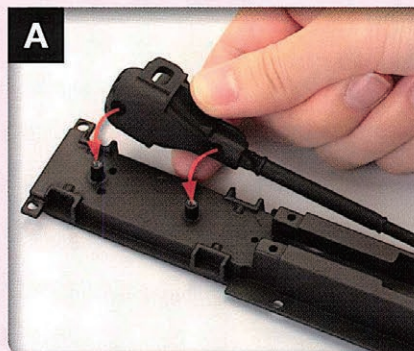
- ・プラスドライバー(1番)
- ・タップホルダー(34号で提供したもの)
- ・2.3mm中タップ(34号で提供したもの)

用意するもの

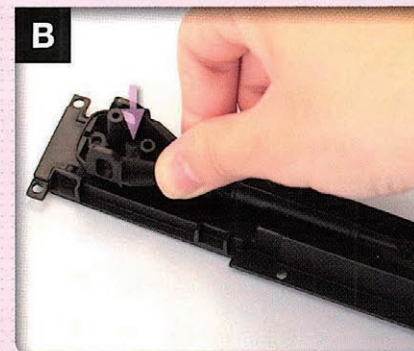
- ・シャシーフレームA(35号で組み立てたもの)
- ・デフケース(35号でシャシーフレームに接着していない場合)

35号で【デフケースのパーツが簡単に外れてしまう場合】に従って作業した場合

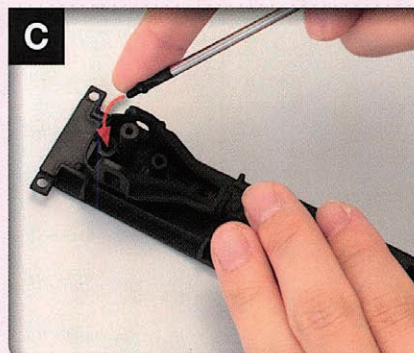
35号で紹介した【デフケースのパーツが簡単に外れてしまう場合】の作業を行った場合は、以下の手順に従って事前準備を済ませてください。



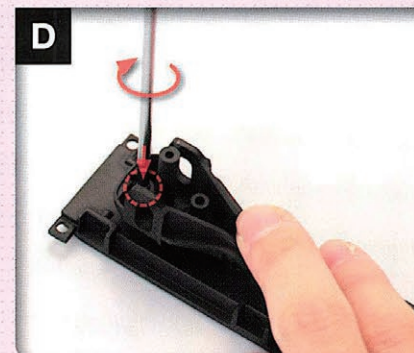
35号でタップを立てたシャシーフレームAのポスト部に、取り外したデフケース&プロペラシャフトを写真の向きでセットする。



デフケース&プロペラシャフトを軽く押し込み、裏面の取り付け穴にシャシーフレームのポストをはめ込む。



②ビス(Pタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットする。



1番のプラスドライバーを使い、Pタイプのビスを真っすぐにねじ込む。35号の準備作業でタップを立ててあるので、必要以上に力を入れてねじ込むとビス穴を傷めてしまう。気を付けて作業しよう。



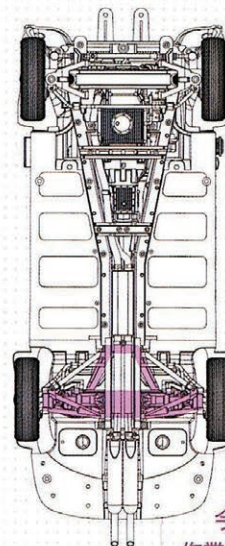
写真のビス穴にもPタイプのビスをセットし、**□**と同じ要領でねじ込む。



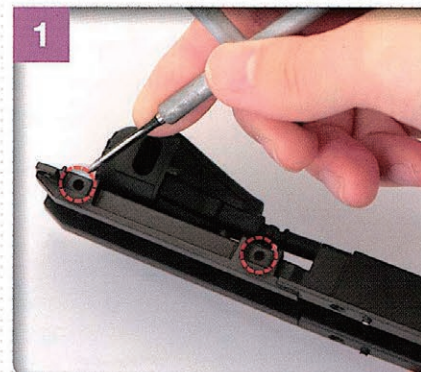
取り外していたデフケースAを用意し、シャシーフレームAに固定したデフケース&プロペラシャフトにセットし、はめ込む。



写真の状態になれば、事前の準備は完了だ。35号でデフケースを接着した場合はすでにこの状態になっているので、ここから今号の組み立て作業に着手する。なお、使用しなかった残りのPタイプのビスは後の号で使うので、大切に保管しておこう。



今号で作業する箇所

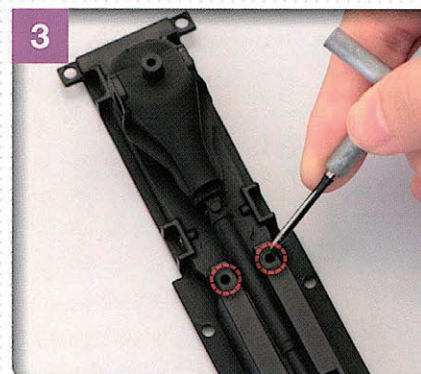


デフケースを取り付けたシャシーフレームAを用意する。34号で提供したタップホルダーに2.3mm中タップをセットし、写真で示したビス穴にタップを立てる。

※次ページの「タップを立てるときのポイント」を参照。



シャシーフレーム左側面のビス穴(写真参照)にもタップを立てる。

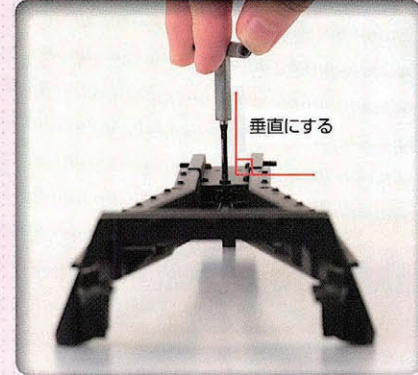
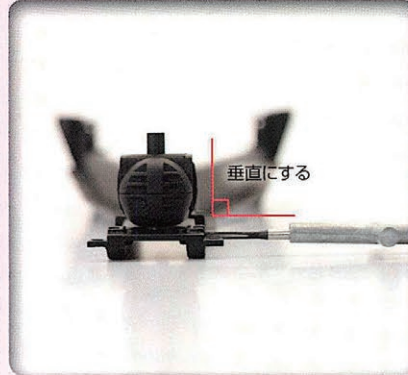
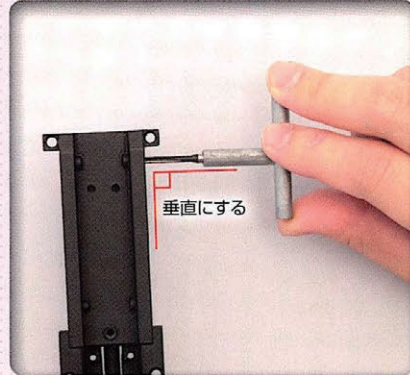


シャシーフレーム上面の、写真で示したビス穴にもタップを立てる。



4 シャシーフレームを裏返し、写真で示したビス穴にもタップを立てる(計7カ所)。

タップを立てるときのポイント



ビス穴にタップを立てるときは、パーツに対して中タップが常に“垂直”となるよう注意しよう。また、シャシーフレームのビス穴は比較的浅いので、中タップのねじ込み加減は「1回転半」まで。それ以上ねじ込むと、ビス穴を傷めることになるので細心の注意を払おう。



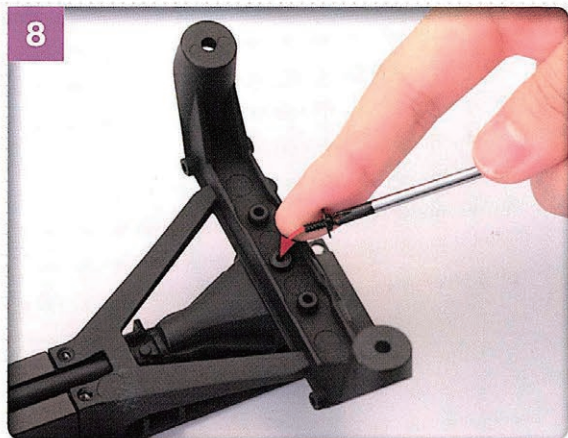
5 指定したビス穴にタップを立て終えた状態。ビス穴の中に金属の削りかすが残っている場合は、取り除いておこう。



6 ①シャシーフレームBを用意し、写真の向きでセットする。



7 デフケースのポストの位置と、シャシーフレームAとBのビス穴の位置をそれぞれ合わせる。この段階では、ポストがシャシーフレームBの穴から突き出してしまうが問題はない。



④ビス(Qタイプ)を用意し、突き出したポスト部のビス穴にセットする。



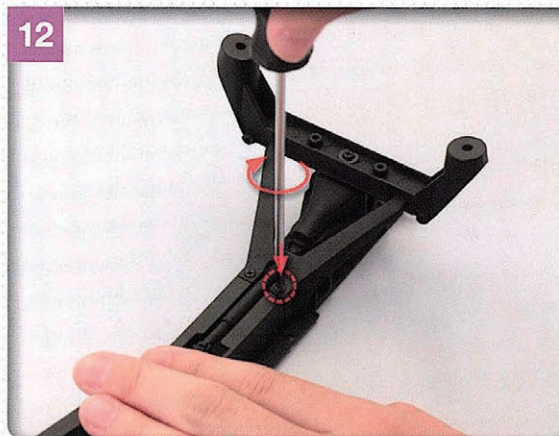
1番のプラスドライバーを使い、Qタイプのビスをねじ込む。このとき、シャシーフレームBが動かないようしっかりと保持しておく。なお、Qタイプのビスには“ワッシャー(円盤状の金属板)”が備わっているので、ワッシャーがポスト部の上面に密着するまでねじ込む。



③ビス(Oタイプ)を用意し、写真で示したビス穴にセットする。このとき、シャシーフレームBの前側が浮き上がっているため、シャシーフレームAに押し付けておく。



シャシーフレームBを押さえたまま、Oタイプのビスを1番のプラスドライバーでねじ込む。必要以上に力を入れてねじ込むと、ビス穴を傷めてしまうので注意しよう。



もう片側のビス穴にもOタイプのビスをセットし、1番のプラスドライバーでねじ込む。

今号の完成



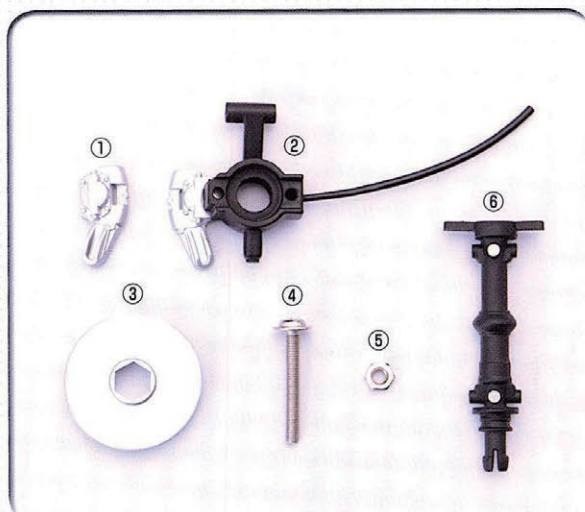
これで今回の作業は完了だ。2分割されたシャシーフレームが一体化され、実車と同じデザインの「Xボーンフレーム」が完成した。ダイキャスト製パーツならではの重厚感のある仕様だ。今後これに前後のサスペンションが組み付けられていくことになる。

37号

左リヤアクスルを組み立てる

今号では「左リヤアクスル」の組み立て作業を行う。19号でホイールにはめ込んだ「左リヤタイヤ」と、36号で提供したPタイプのビスを使用するので、作業に取り掛かる前に用意しておこう。また、一部のパーツは接着した方が望ましいので、多用途接着剤と瞬間接着剤(低白化タイプ)も準備しておこう。

今号のパーツ



- ①左ブレーキキャリパー×1
- ②左リヤハブ×1
- ③ブレーキディスク×1
- ④リヤアクスルシャフト×1
- ⑤ナット×1
- ⑥ドライブシャフト×1

使用する道具

- ・ブラスドライバー(1番)
- ・クロスレンチ(12号で提供したもの)
- ・タップホルダーと2.3mm中タップ(34号で提供したもの)

用意するもの

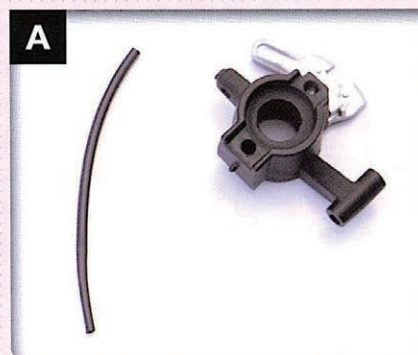
- ・左リヤタイヤ(19号で組み立てたもの)
- ・ビス(Pタイプ)×2(36号で提供したもの)
- ・多用途接着剤(「セメダイン スーパーX-G」を推奨)

あると便利な道具

- ・瞬間接着剤(低白化タイプ)

左リヤハブのブレーキホースが外れている場合の対処

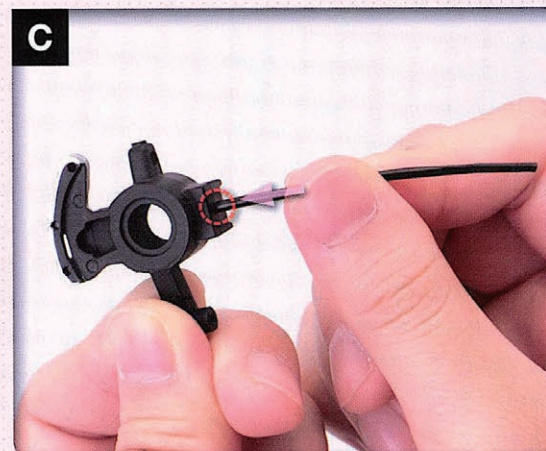
今号で提供する②左リヤハブには、黒いブレーキホースがあらかじめ取り付けられている。万が一このパーツが外れていた場合は、作業前に低白化タイプの瞬間接着剤を使って取り付けておこう。



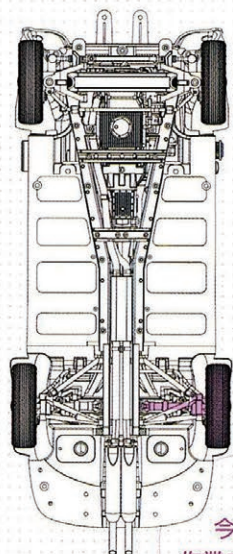
場合によっては、ブレーキホースが左リヤハブから外れていることがある。



低白化タイプの瞬間接着剤を用意し、写真で示した左リヤハブの小さな突起部分に少量塗布する。



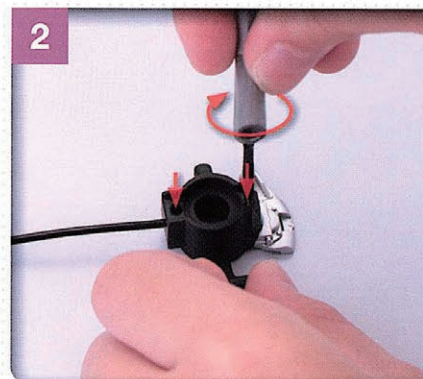
ブレーキホースを突起に差し込んで接着する。これで今号の作業を始める準備が整った。



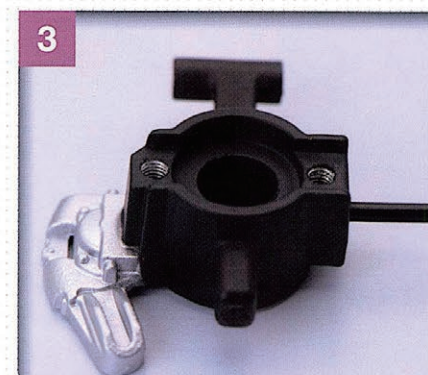
今号で
作業する箇所



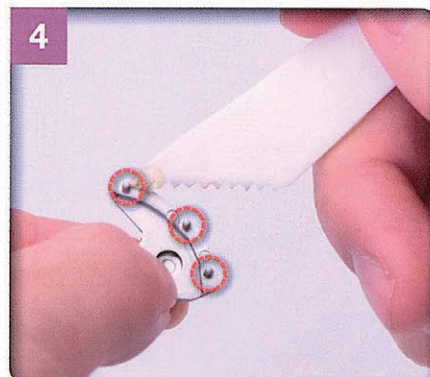
34号で提供したタップホルダーに2.3mm中タップをセットし、写真で示したビス穴にタップを立てる。



中タップがパーツに対して垂直になるよう軽く押し付け、ゆっくりと右方向に「1回転半」だけ回す。その後、左方向に回して抜き取る。



タップを立て終えた状態の左リヤハブ。ビス穴の中に金属の削りかすが残っている場合は、取り除いておこう。



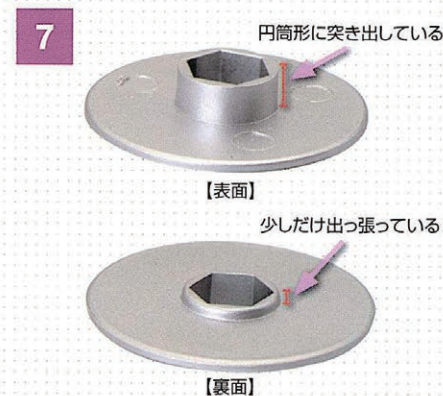
①左ブレーキキャリアを用意し、パーツ裏面の縁部分に設けられた小さな突起3カ所の先端に、多用途接着剤をごく少量塗布しておく。



左リヤハブのブレーキキャリア部分に、4で多用途接着剤を塗布した左ブレーキキャリアをはめ込む。



写真で示した“すき間”がつぶれないよう注意しながら、左ブレーキキャリアの縁部分を押し込んで固定する。



③ブレーキディスクを用意し、表面と裏面の形状を確認する。中央部に円筒状の突起が設けられている側が表面になる。



⑥で組み立てた左リヤハブを写真のように持ち、ブレーキディスクの表面が見える状態にして、左ブレーキキャリアの“すき間”にセットする。



次に、ブレーキディスク裏面の中央部分(少しだけ出っ張っている部分)を左リヤハブ中央部のくぼみにはめ込む。



19号で組み立てた左リヤタイヤを用意し、ブレーキディスクが抜け落ちないように保持しながら、写真のように左リヤタイヤのシャフト部分をブレーキディスクの表面に向けてセットする。



左リヤタイヤのシャフト部分を真っすぐに差し込む。このとき、シャフトの付け根に設けられた六角形の部分が、ブレーキディスク表面に設けられた円筒状の突起の内側にはまるよう、タイヤを回して調整する。



左リヤタイヤが左リヤハブにしっかりと差し込まれた状態。写真で示した左リヤハブ中央の穴に、左リヤタイヤのシャフト部断面が見えていることを確認しよう。



④リアアクスルシャフトを用意し、写真で示した穴に差し込む。



クロスレンチを用意し、⑤ナットを六角サイズに合う穴にセットする。
※写真は12号で提供されたクロスレンチとデザインが異なります。



ナットをセットした状態。写真のように、ナットは六角穴にぴったりと収まる。



16 まで組み立てた左リヤハブ(と左リヤタイヤ)を用意し、差し込んであるリヤアクスルシャフトが抜け落ちないように保持したまま表面に返す。次に、ホイール中心部に突き出しているリヤアクスルシャフト先端へ、クロスレンチにはめ込んだ状態のナットをセットする。



17 クロスレンチをホイールに対して垂直に保持し、右に回してナットをねじ込む。このとき、リヤアクスルシャフトが回らないよう指先で押さえておき、手で締め込めるところまでねじ込む。



18 さらに再び裏返し、⑥ドライブシャフトを用意したら、写真を参照して“取り付ける向き”を確認する。

【訂正】シルバーに塗装されている側を上の写真とは反対にセットする。

※間違えないように、今号の完成画像を参照してください。



19 左リヤハブのくぼみ部分に、ドライブシャフトの先端部分をセットする。この状態では簡単に外れてしまうので、外れないように保持しておくこと。



20 19の状態から左リヤタイヤを写真のように半回転させ、“ブレーキホース側のドライブシャフトのビス穴(赤丸参照)”を、写真の位置にする(ブレーキホースが外れないよう、先にこちら側から作業を行う)。次に、36号で提供したPタイプのビスを1番のプラスドライバー先端にセットし、ドライブシャフトのビス穴にそのまま差し込む。ビスの先端はドライブシャフトのビス穴を貫通し、その下にある左リヤハブのビス穴にセットされる。



21 20の状態のまま、ドライバーを右に回してPタイプのビスをねじ込む。このとき、ドライブシャフトが動かないよう保持しておこう。また、ビスを必要以上にねじ込むと、ドライブシャフトが傾いてしまうので、ビスのアタマ部分が樹脂パーツに接したら、ねじ込むのをやめる。



22 続いて左リヤタイヤをさらに半回転させ、残りのPタイプのビスをもう片方のビス穴にセットし、1番のプラスドライバーでねじ込む。こちらも“ビスのアタマ部分が樹脂パーツに接するまで”ねじ込む。その後、21でねじ込んだPタイプのビスと交互に半回転ずつ締め込んで、固定する。



今号の完成

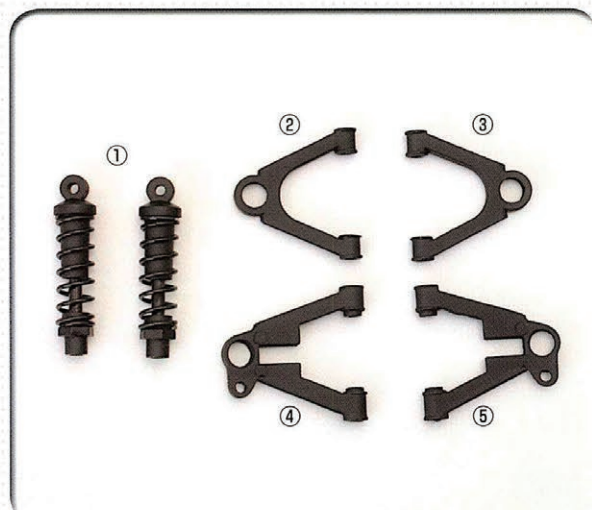
これで今回の作業は完了だ。19号と21号で組み立てた左右の「フロントナックル」の作業では、アクスルシャフトをドライバーで締め込んだが、今回組み立てた左リヤハブは、取り付けしたドライブシャフトがアクスルシャフトの抜け落ちを防ぐ役目を果たすので、手で締め込むだけで十分だ。なお、18号で提供した左リヤ用ハブナットは、後の作業後に取り付けるので、それまで大切に保管しておこう。

38号

フロントサスアームの準備をする

今号では、フロントのサスペンションを構成する「フロントアッパーアーム」と「フロントロワアーム」を提供する。シャシーフレームへの取り付けは後の作業になるので、今回は形状の確認と、ビス穴のチェックを済ませておこう。

今号のパーツ



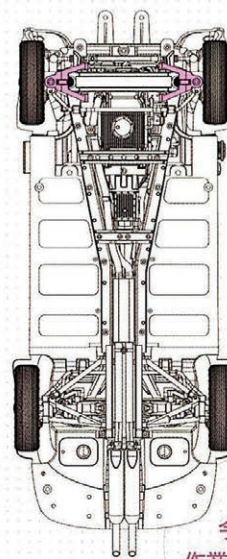
- ①フロントダンパー×2
- ②フロントアッパーアーム左×1
- ③フロントアッパーアーム右×1
- ④フロントロワアーム左×1
- ⑤フロントロワアーム右×1

使用する道具

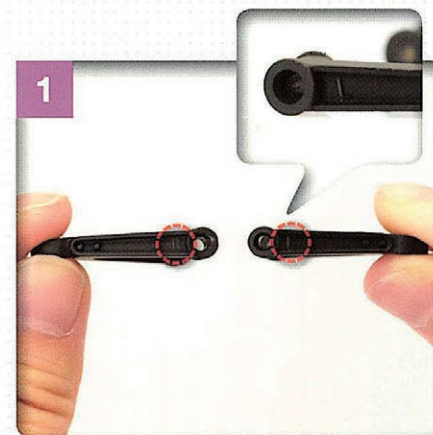
・ピンセット(2号で提供したもの)

用意するもの

- ・ビス(Lタイプ)×1(35号で提供したもの)
- ・多用途接着剤(「セメダイン スーパーX-G」を推奨)
- ・つまようじ



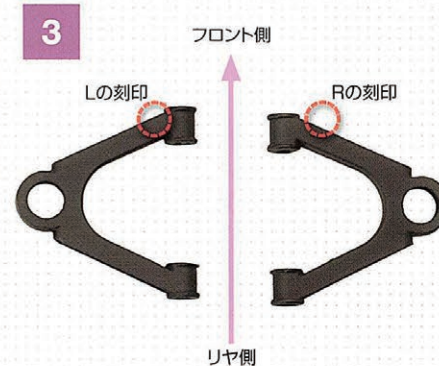
今号で作業する箇所



②フロントアッパーアーム左と③フロントアッパーアーム右を用意し、“側面”をチェックする。写真で示した位置に左用には「L」、右用には「R」の文字が刻印されている。



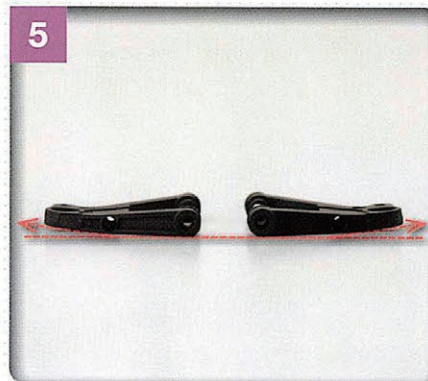
次に、フロントアッパーアーム左とフロントアッパーアーム右を平らな台の上に並べて置く。サスアームの先端部分(写真の左右端)は少しだけ反っているので、それが下に向くようにする。この状態が“取り付ける向き”になるので覚えておこう。



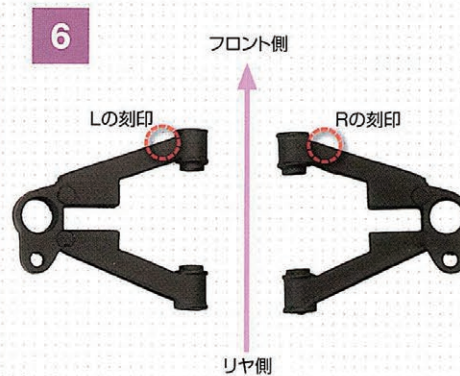
パーツを真上から見たところ。フロントアッパーアームの形状は、左右ともほぼ同じなので、①で確認した刻印と②を参照して間違えないようにしよう。



④フロントロワーム左と⑤フロントロワーム右を用意し、“側面”をチェックする。写真で示した位置に左用には「L」、右用には「R」の文字が刻印されている。



次に、フロントロワーム左とフロントロワーム右を平らな台の上に並べて置く。サスアームの先端部分(写真の左右端)は少しだけ反っているので、それが上に向くようにする。この状態が“取り付ける向き”になるので覚えておこう。



パーツを真上から見たところ。④で確認した刻印と⑤を参照して左右を間違えないようにしよう。



アッパーアームとロワームの左右と、35号で提供したLタイプのビスを1本用意する。2号で提供したピンセットを使って、写真で示したビス穴(写真はフロントアッパーアーム)にLタイプのビスを内側から軽くセットしてみよう。片側のビス穴にはビスを差し込むことができ、もう片側には差し込めないことを確認しよう。すべてのアームでこのチェックをする必要がある。

チェックしたビス穴の改修方法

左右のアッパーアームおよびロワームは、フロント寄りにはビスを差し込むことができ、リア寄りには差し込めない状態が正しいのだが、製造工程で不具合が生じてしまう場合がある。その場合は以下の手順に従って対処しよう。

**Lタイプのビスが、両方のビス穴に
対して簡単に差し込んでしまう場合**



リア側(③、⑥を参照)のビス穴の内径が大きい場合は、サスアームを固定するビスが抜け落ちる恐れがある。その場合は、つまようじの先端に多用接着剤をごく少量付け、ビス穴の内側に軽く塗り付けておく。付け過ぎるとビス穴をふさいでしまうので注意しよう。

**Lタイプのビスが、両方の
ビス穴に対して差し込めない場合**



フロント側(③、⑥を参照)のビス穴の縁にバリなどが残っていると、サスアームを固定するビスが差し込めなくなってしまう。その場合は、ホビー用ダイヤモンドヤスリを使い、ビス穴の縁に残ったバリを取り除き、穴径を少しだけ広げておく。



①フロントダンパーを2個用意し、両手を使って伸縮することを確認しよう。なお、ダンパーに使用されているスプリングは非常に硬いので、手を痛めないよう注意すること。

今号の完成



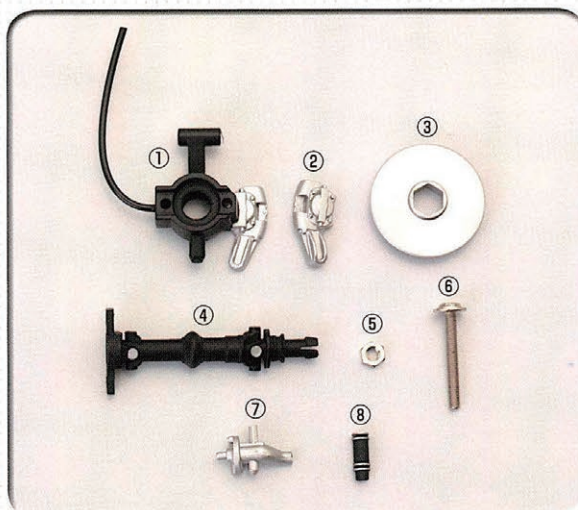
これで今回の作業は完了だ。サスアームは左右の形状が似ているので、判別するポイントと、取り付ける向きをしっかりと確認しておこう。なお、ビス穴のチェックに使用した「Lタイプのビス」は後の作業で使用するので、未使用のビスと一緒に保管しておこう。

39号

右リヤアクスルを組み立てる

今号では「右リヤアクスル」の組み立て作業を行う。21号でホイールにはめ込んだ「右リヤタイヤ」と、36号で提供したPタイプのビスを使用するので、作業に取り掛かる前に用意しておこう。また、一部のパーツは接着した方が望ましいので、多用途接着剤と瞬間接着剤(低白化タイプ)も準備しよう。

今号のパーツ



- ① 右リヤハブ×1
- ② 右ブレーキキャリパー×1
- ③ ブレーキディスク×1
- ④ ドライブシャフト×1
- ⑤ ナット×1
- ⑥ リヤアクスルシャフト×1
- ⑦ ホースコネクター×1
- ⑧ ラジエーターホース×1

※⑦⑧は今回の作業では使用しないので、大切に保管しておこう。

使用する道具

- ・プラスドライバー(1番)
- ・クロスレンチ(12号で提供したもの)
- ・タップホルダーと2.3mm中タップ(34号で提供したもの)

用意するもの

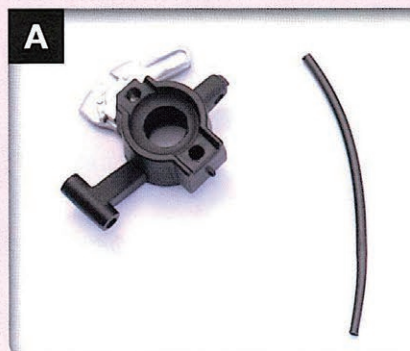
- ・右リヤタイヤ(21号で組み立てたもの)
- ・ビス(Pタイプ)×2(36号で提供したもの)
- ・多用途接着剤(「セメダイン スーパーX-G」を推奨)
- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
- ・油性ペン

あると便利な道具

- ・瞬間接着剤(低白化タイプ)

右リヤハブのブレーキホースが外れている場合の対処

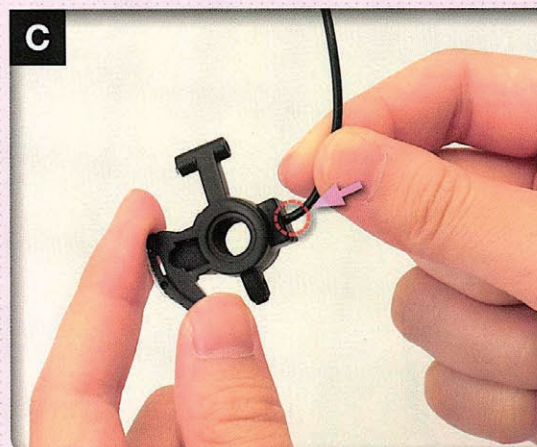
今号で提供する①右リヤハブには、黒いブレーキホースがあらかじめ取り付けられている。このパーツが外れていた場合は、作業を始める前に低白化タイプの瞬間接着剤を使って取り付けておこう。



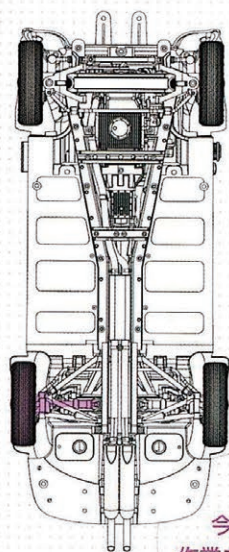
場合によって、ブレーキホースがリヤハブから外れていることがある。



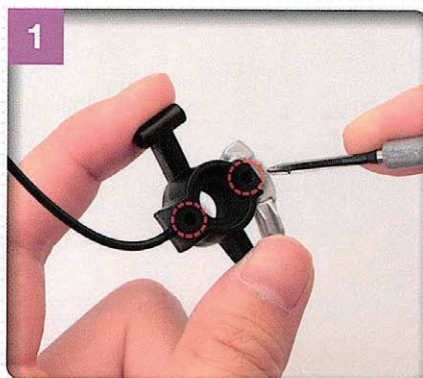
低白化タイプの瞬間接着剤を用意し、写真で示したリヤハブの小さな突起部分に少量塗布する。



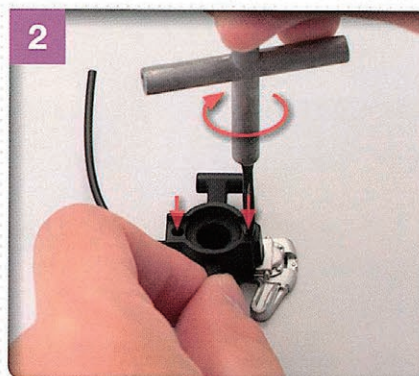
ブレーキホースを突起に差し込んで接着する。これで今号の作業を始める準備が整った。



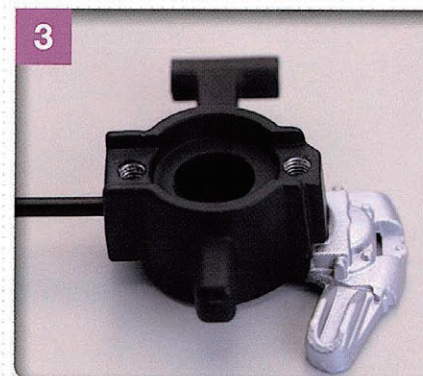
今号で
作業する箇所



①右リヤハブを用意する。34号で提供したタップホルダーに2.3mm中タップをセットし、写真で示したビス穴にタップを立てる。



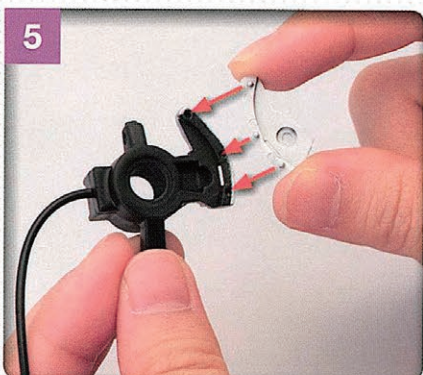
中タップがパーツに対して垂直になるよう軽く押し付け、ゆっくりと右方向に「1回転半」だけ回す。その後、左方向に回して抜き取る。



タップを立て終えた状態のリヤハブ。ビス穴の中に金属の削りかすが残っている場合は、取り除いておこう。



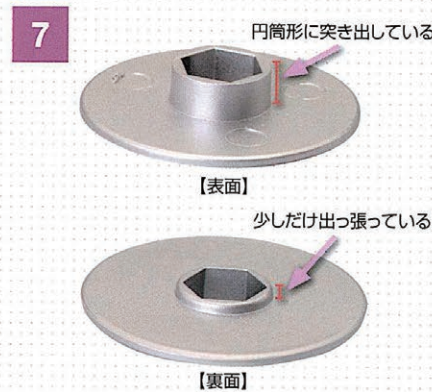
②右ブレーキキャリパーを用意し、パーツ裏面の縁部分に設けられた小さな突起3カ所の先端に、多用途接着剤をごく少量塗布しておく。



右リヤハブのブレーキキャリパー部分に、④で多用途接着剤を塗布した右ブレーキキャリパーをはめ込む。



写真で示した“すき間”がつかぶれないよう注意しながら、右ブレーキキャリパーの縁部分を押し込んで固定する。



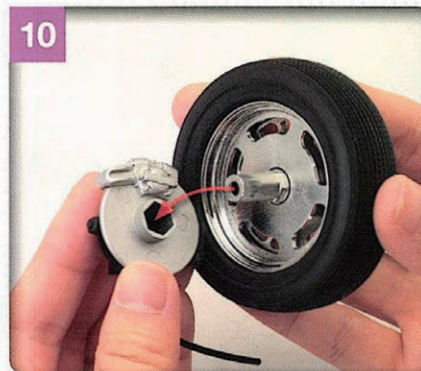
③ブレーキディスクを用意し、表面と裏面の形状を確認する。中央部に円筒形の突起が設けられている側が表面になる。



⑧で組み立てた右リヤハブを写真のように持ち、ブレーキディスクの表面が見える状態にして、ブレーキキャリパーの“すき間”にセットする。



次に、ブレーキディスク裏面の中央部分(少しだけ出っ張っている部分)を右リヤハブ中央部のくぼみにはめ込む。



21号で組み立てた右リヤタイヤを用意し、ブレーキディスクが抜け落ちないように保持しながら、写真のように右リヤタイヤのシャフト部分をブレーキディスクの表面に向けてセットする。



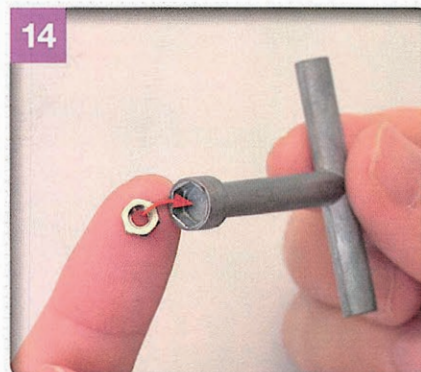
右リヤタイヤのシャフト部分を真っすぐに差し込む。このとき、シャフトの付け根に設けられた六角形の部分が、ブレーキディスク表面に設けられた円筒形の突起の内側にはまるよう、タイヤを回して調整する。



右リヤタイヤがハブにしっかりと差し込まれた状態。写真で示した右リヤハブ中央の穴に、右リヤタイヤのシャフト部断面が見えていことを確認しよう。



⑥リヤアクスルシャフトを用意し、写真で示した穴に差し込む。



クロスレンチを用意し、⑤ナットを六角サイズに合う穴にセットする。
※写真は12号で提供されたクロスレンチとデザインが異なります。



ナットをセットした状態。写真のように、ナットは六角穴にぴったりと収まる。

16



15まで組み立てた右リヤハブ(と右リヤタイヤ)を用意し、差し込んであるリアアクスルシャフトが抜け落ちないように保持したまま表面に返す。次に、ホイール中心部に突き出しているリアアクスルシャフト先端へ、クロスレンチにはめ込んだ状態のナットをセットする。

17



クロスレンチをホイールに対して垂直に保持し、右に回してナットをねじ込む。このとき、リアアクスルシャフトが回らないよう指先で押さえておき、手で締め込めるところまでねじ込む。

18



さらに再び裏返し、④ドライブシャフトを用意したら、写真を参照して“取り付ける向き”を確認する。

【訂正】シルバーに塗装されている側を上の写真とは反対にセットする。

※間違えないように、今号の完成画像を参照してください。

19



右リヤハブのくぼみ部分に、ドライブシャフトの先端部分をセットする。この状態では簡単に外れてしまうので、外れないように保持しておくこと。

20



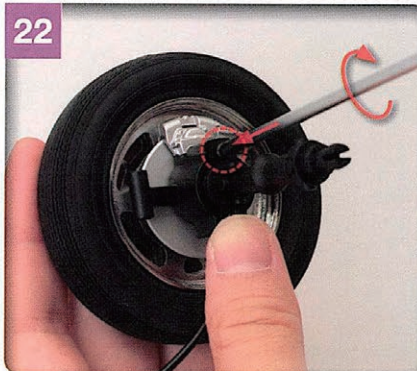
36号で提供したPタイプのビスを用意して、1番のプラスドライバー先端にセット。そのまま写真で示したドライブシャフトのビス穴に差し込む。ビスの先端はドライブシャフトのビス穴を貫通し、その下にある右リヤハブのビス穴にセットされる。

21



20の状態のまま、ドライバーを右に回してPタイプのビスをねじ込む。このとき、ドライブシャフトが動かないよう保持しておこう。また、ビスを必要以上にねじ込むと、ドライブシャフトが傾いてしまうので、ビスのアタマ部分が樹脂パーツに接したら、ねじ込むのをやめる。

22



続いて、残りのPタイプのビスをもう片方のビス穴にセットし、1番のプラスドライバーでねじ込む。こちらも“ビスのアタマ部分が樹脂パーツに接するまで”ねじ込み、その後21でねじ込んだPタイプのビスと交互に半回転ずつ締め込んで固定する。

今号の完成



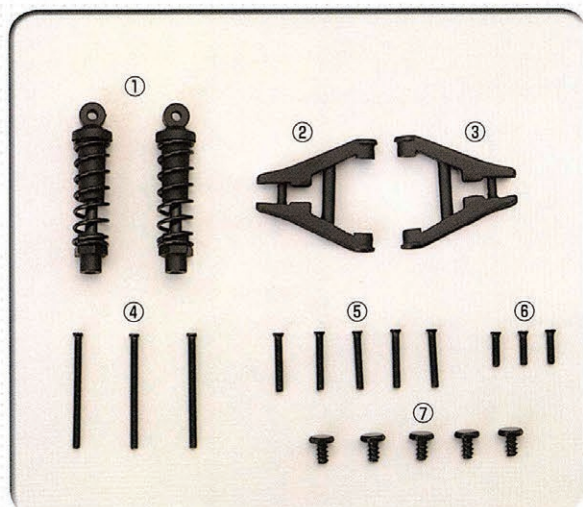
これで今回の作業は完了だ。37号で組み立てた左リアアクスルと同様、ハブナットは後の作業後に取り付ける。また、⑦ホースコネクターと⑧ラジエーターホースも後に使用するので、紛失しないよう大切に保管しておこう。

40号

リヤアッパーアームと リヤダンパーを取り付ける

今号では、36号で組み立てたシャシーフレームに「リヤアッパーアーム」と「リヤダンパー」を取り付ける。リヤアッパーアームには左右があり、取り付ける向きが定められているので、作業時に間違えないよう注意しよう。

今号のパーツ



- ①リヤダンパー×2
- ②リヤアッパーアーム左×1
- ③リヤアッパーアーム右×1
- ④ビス(Vタイプ)×3(※1本は予備)
- ⑤ビス(Wタイプ)×5(※1本は予備)
- ⑥ビス(Xタイプ)×3(※1本は予備)
- ⑦ビス(Uタイプ)×5(※1本は予備)

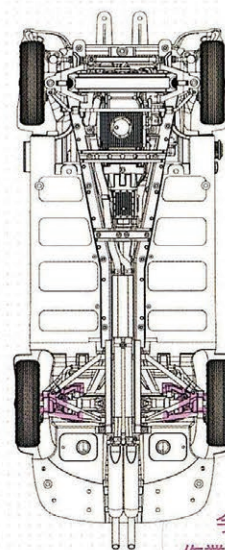
※⑥は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

使用する道具

- ・プラスドライバー(1番)
- ・クロスレンチ(12号で提供したもの)

用意するもの

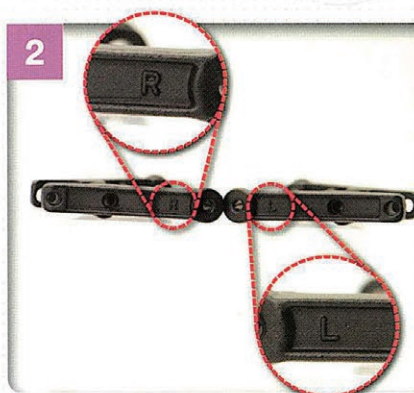
- ・シャシーフレーム(36号で組み立てたもの)
- ・ビニール袋(パーツが入っていた袋で可)
- ・油性ペン



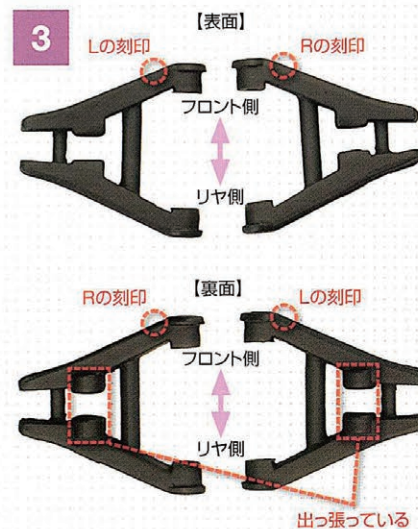
今号で
作業する箇所



①リヤダンパーを用意し、両手を使って伸縮することを確認しよう。なお、ダンパーに使用されているスプリングは非常に硬いので、手を傷めないよう注意すること。



②リヤアッパーアーム左と③リヤアッパーアーム右を用意して並べ、写真で示した側面部分を確認しよう。リヤアッパーアーム左には「L」、リヤアッパーアーム右には「R」の刻印があり、これが左右を見分けるポイントになる。



次に、リヤアッパーアームの表面と裏面を確認する。パーツを写真のように並べ、中央部付近に出っ張った部分がある側が裏面、平らな側が表面になる。



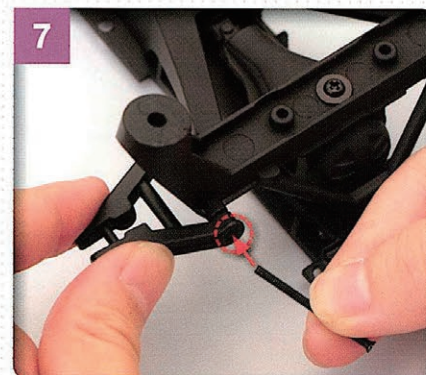
④ビス(Vタイプ)を用意し、写真のようにリヤアッパーアーム左右のビス穴に軽く差し込んでみよう。側面に“刻印のない側は貫通”し、“刻印のある側は貫通しない”はずだ。もしも両方とも貫通する、あるいは両方とも貫通しない場合は、本誌38号100ページ「チェックしたビス穴の改修方法」と同じ方法で修正しよう。



36号で組み立てたシャシーフレームを用意し、写真で示した位置にリヤアッパーアーム左をセットする。パーツを間違えないよう「L」の刻印を確認しよう。



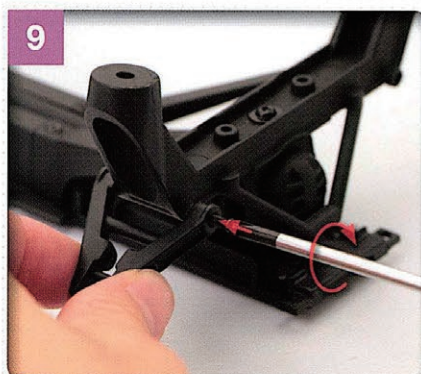
リヤアッパーアーム左に設けられたビス穴と、シャシーフレーム側のビス穴を合わせておく。



リヤアッパーアーム左がシャシーフレームから外れないよう保持し、Vタイプのビスを写真で示したビス穴にセットする。



Vタイプのビスを差し込み、シャシーフレーム側のビス穴を貫通させる。次にリヤアッパーアームのフロント側のビス穴にねじ込むので、ビスの先端が穴からずれないように、アッパーアームを保持する角度を調整しよう。



1番のプラスドライバーを使い、Vタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスがねじ込まれるアッパーアームのフロント側のビス穴は、緩み防止のために位置が少しだけずらされており、スムーズにねじ込むことが難しい仕様だ。ドライバーが傾いていたり、保持しているアッパーアームの位置がずれると、ビスのアタマ部分を傷めてしまうことがあるので注意すること。



Vタイプのビスのアタマ部分がリヤアッパーアーム左の側面と“ツライチ(出っ張らず、平らな状態になること)”になればOKだ。アッパーアームが軽く動くことを確認しよう。



5~10と同じ手順でリヤアッパーアーム右をシャシーフレームに取り付け、軽く動くことを確認する。

12

リヤアッパー
アーム左



リヤダンパーを用意し、シャシーフレームへの取り付け部の形状を確認する。右上の写真のように、取り付けポストの根元が六角形になっている。これを差し込むシャシーフレーム側には、六角形の穴が設けられている。

13



12で確認したシャシーフレーム左側の取り付け部にリヤダンパーを差し込む。このとき、ダンパー側の取り付けポストを、フレーム側の六角形の穴にはめ込む。

14



⑦ビス(Uタイプ)を用意し、リヤダンパーが抜け落ちないように保持したまま、写真で示したシャシーフレーム上部のビス穴にセットする。

15



12号で提供したクロスレンチを使い、Uタイプのビスをねじ込んでリヤダンパーを固定する。ビスのねじ込み加減は、リヤダンパーがグラグラと動かなくなればOKだ。

16



リヤダンパーの下側を写真のように回し、下に突き出た取り付け部を写真の向きにする。

17



リヤアッパーアーム左を上方向に持ち上げ、サスアームの中央部分に設けられたすき間(写真参照)に、リヤダンパーの取り付け部を差し込む。

18



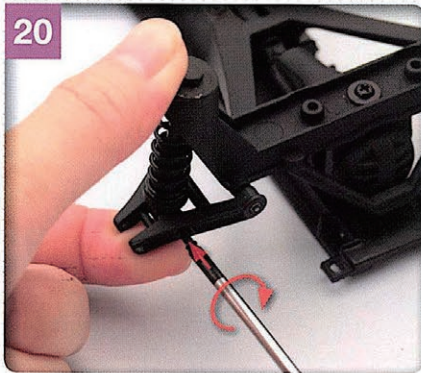
リヤダンパーをアッパーアームにセットした状態。このとき、リヤダンパーの取り付け部とアッパーアーム側のビス穴の位置が合うよう、アッパーアームを少し上方に押し上げておく。

19



リヤアッパーアームとリヤダンパーを保持したまま、写真で示したビス穴へ⑥ビス(Wタイプ)を差し込む。ビスの先端はリヤダンパーの取り付け部の穴を貫通し、アッパーアームのフロント側ビス穴にねじ込まれるので、そこまで差し入れる。

20



1番のプラスドライバーを使い、Wタイプのビスをゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分がアッパーアームの側面とツライチになればOKだ。

21



アッパーアームとシャシーフレームを挟むようにして持ち、アッパーアームを上下に動かして動作を確認しよう。もしも動作が硬い場合は、12～16を参照し、リヤダンパーの締め込み具合を再調整するとい。

22



12～16と同じ要領で、もう一つのリヤダンパーをシャシーフレーム右側の取り付け部に固定する。

23



リヤアッパーアーム右を上方向に持ち上げ、サスアームの中央部分に設けられたすき間(写真参照)に、リヤダンパーの取り付け部を差し込む。リヤダンパーの取り付け部とアッパーアーム側のビス穴の位置を合わせる。

24



リヤアッパーアームとリヤダンパーを保持したまま、写真で示したビス穴へWタイプのビスを差し込み、1番のプラスドライバーを使ってゆっくりとねじ込む。ビスのアタマ部分がアッパーアームの側面とツライチになればOKだ。

25



アッパーアームとシャシーフレームを挟むようにして持ち、アッパーアームを上下に動かして動作を確認しよう。もしも動作が硬い場合は、24同様にリヤダンパーの締め込み具合を再調整するとい。

今号の完成



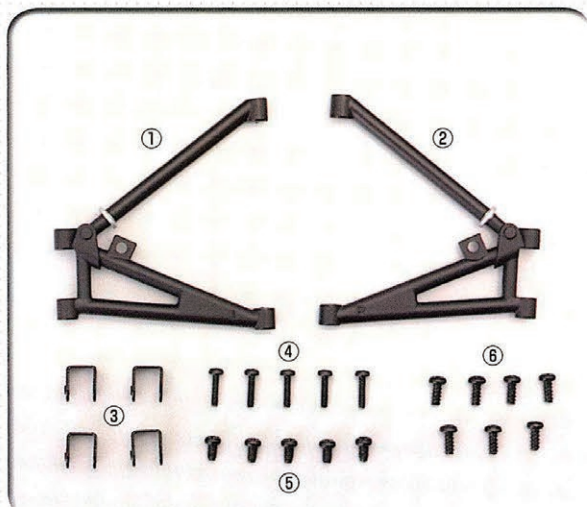
これで今回の作業は完了だ。リヤアッパーアーム左右の形状が似通っており、取り付ける向きも定められているので、間違えないよう注意しよう。また、アッパーアームを固定するVタイプのビスは、やや“ねじ込みにくい仕様”になっているので、慎重に作業を進めよう。なお今回使用しなかった⑥ビス(Xタイプ)と、余ったWタイプビス、Uタイプビス(ともに予備を含め残り3本)は後の作業で使うので、号数を記入したビニール袋に入れ、大切に保管しておこう。

41号

シャシーフレームに リヤロワームを取り付ける

今号では、シャシーフレーム後部に「リヤロワームブラケット」を取り付け、そこへ「リヤロワーム」を組み付ける。リヤロワームブラケットには取り付ける向きがあるので、間違えないよう注意が必要だ。また、リヤロワームにも左右があるので、パーツの刻印をしっかりと確認しよう。

今号のパーツ



- ①リヤロワーム左×1
- ②リヤロワーム右×1
- ③リヤロワームブラケット×4
- ④ビス(Sタイプ)×5(※1本は予備)
- ⑤ビス(Rタイプ)×5(※1本は予備)
- ⑥ビス(Hタイプ)×7(※1本は予備)

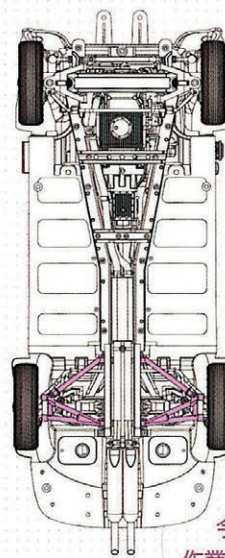
※⑥は今回使用しないので、大切に保管しておこう。

使用する道具

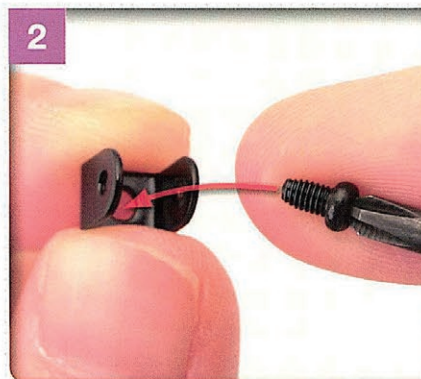
・ロングタイプドライバー(9号で提供したもの)

用意するもの

・シャシーフレーム(40号で組み立てたもの)



今号で
作業する箇所



2号で提供したロングタイプドライバーを用意し、その先端に⑥ビス(Rタイプ)をセットして、リヤロワームブラケット中央の穴に差し込む。



③リヤロワームブラケットを用意し、写真のように並べて形状を確認しよう。パーツは「コの字形」になっていて、中央の辺(写真では底面)と、2つの側面にビス穴が設けられている。側面の2つのビス穴には違いがあり、縁の部分が外側にめくれている側は「リヤ側」、めくれていない側は「フロント側」に取り付ける。



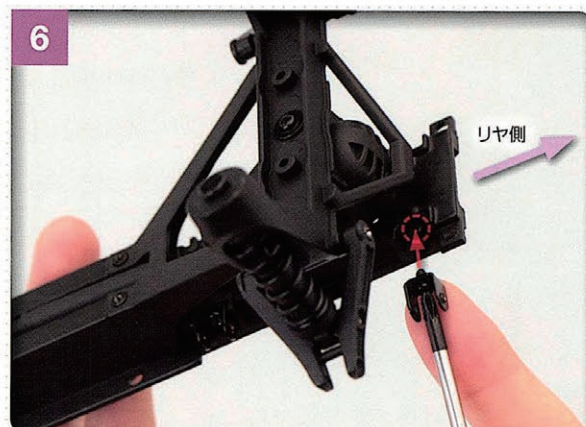
②の作業で、Rタイプのビスをリヤロワームブラケットにセットした状態。パーツを指で軽く押さえ、そのままシャシーフレームへ取り付ける。このとき、①で確認したリヤロワームブラケット側面のビス穴の向きを確かめておこう。写真のように、ビス穴の縁がめくれていない側はフロント側になる。



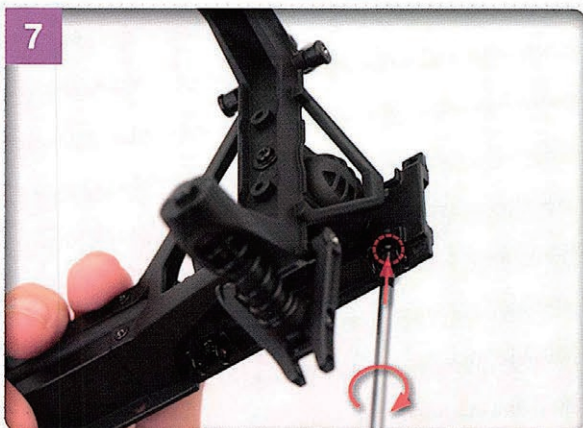
40号で組み立てたシャシーフレームを用意し、写真で示したリヤ寄り左側面に設けられたくぼみのビス穴に、③の状態にしたRタイプのビスの先端をセットする。リヤロワームブラケットの向きを間違えないよう注意しよう。



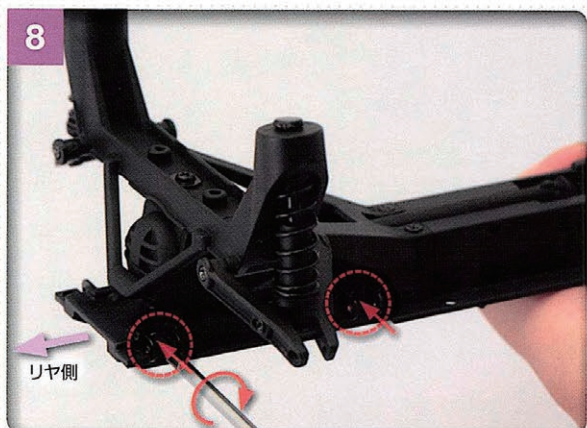
ドライバーを右方向に回してビスをねじ込み、リヤロワームブラケットが動かなくなるまでビスをねじ込めばOKだ。このとき、ロワームブラケットが水平になるよう角度を調整する。ビスを無理にねじ込むと、ビス穴を傷めてしまうので注意しよう。



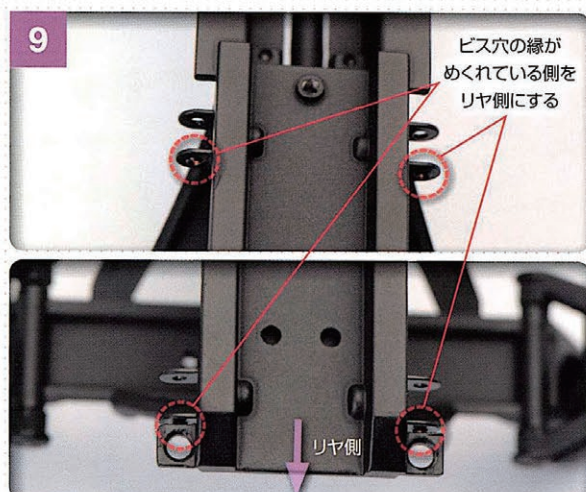
②、③と同じ要領でリヤロワームブラケットにロングタイプドライバーを使ってRタイプのビスを差し込み、写真で示したシャシーフレーム後端のくぼみにセットする。リヤロワームブラケットの向きを間違えないよう注意しよう。



⑤と同じ要領でドライバーを右方向に回し、リヤロワームブラケットが動かなくなるまでビスをねじ込む。ロワームブラケットが水平になるよう角度を調整しながらねじ込もう。ビスを無理にねじ込むと、ビス穴を傷めてしまうので注意すること。

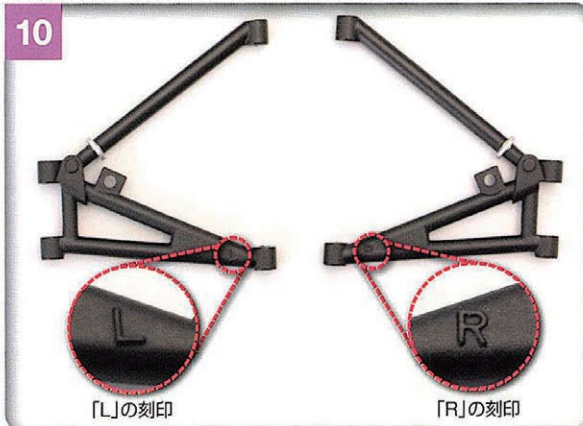


②～⑦と同じ手順で、シャシーフレームの右側面にも2個のリヤロワームブラケットを取り付ける。



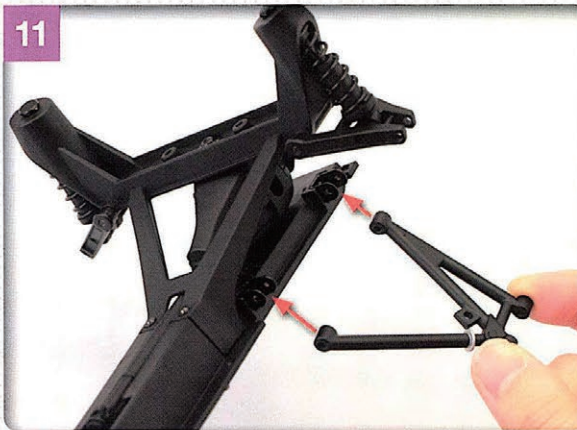
シャシーフレームを裏返し、取り付けしたリヤロワームブラケットの向きを再確認しておく。写真のように、フロント側、リヤ側ともに“ビス穴の縁がめくれている側”がリヤ側になっていることを確かめよう。

10



①リヤロワーム左と②リヤロワーム右を用意し、並べて左右を確認する。写真で示した位置に、左ならば「L」、右ならば「R」の刻印があるので、それを目印にする。

11



リヤロワーム左を用意し、写真のようにシャシーフレーム左側面に取り付けた、リヤロワームブラケットにセットする。

12



リヤロワーム左の取り付け部をロワームブラケットに差し込み、ビス穴の位置を前後それぞれ合わせる。

13



ロングタイプドライバーの先端に④ビス(Sタイプ)をセットし、写真で示したロワームブラケットのビス穴にフロント側から差し込み、リヤロワーム左のビス穴を貫通させる。ビス先端は、ロワームブラケットのリア側のビス穴(縁がめくれている側)に突き当たるようにする。

14



ロングタイプドライバーをシャシーフレームに“沿わせる”ようにして持ち、右方向に回してSタイプのビスをねじ込む。強くねじ込み過ぎるとビス穴を傷め、ロワームの動きを渋くしてしまうので注意しよう。

15



Sタイプのビスをドライバー先端にセットし、写真で示したビス穴に⑬と同じ要領で差し込む。



16
 ロングタイプドライバーをできるだけシャシーフレームに沿わせて持ち、右方向に回してSタイプのビスをねじ込む。パーツの構造上、ビスに対して若干ドライバーが傾いてしまうので、慎重に作業しよう。



17
 取り付けたリヤロワーム左の先端を持ち、軽く上下に動かしてスムーズに動くことを確認しよう。動きが渋い場合は、14、16でねじ込んだSタイプのビスを少しだけ緩める。それでも解消しない場合は、リヤロワームブラケットが傾いた状態で取り付けられている可能性があるため、3～7の手順に戻って再調整しよう。



18
 リヤロワーム右を用意し、シャシーフレーム右側面に取り付けられたリヤロワームブラケットに、写真のようにセットする。



19
 リヤロワーム右の取り付け部をロワームブラケットに差し込み、ビス穴の位置を前後それぞれ合わせる。



20
 Sタイプのビスをドライバー先端にセットし、13～16と同じ要領で前後それぞれのロワームブラケットのビス穴に差し込み、ロングタイプドライバーを右方向に回してねじ込む。



21
 取り付けたリヤロワーム右の先端を持ち、軽く上下に動かしてスムーズに動くことを確認しよう。動きが渋い場合は、20でねじ込んだSタイプのビスを少しだけ緩める。それでも解消しない場合は、リヤロワームブラケットが傾いた状態で取り付けられている可能性があるため、3の手順に戻って再調整しよう。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。ポイントは、リヤロワームブラケットの取り付け方向と角度だ。シャシーフレームに対してブラケットが傾いていると、リヤロワームの動きが渋くなりやすく、修正するためにはロワームを取り外す必要がある。余計な手間を省くためにも、取り付け段階でしっかりと調整しておこう。